II.　基本理念と新しい中央図書館像

1. 基本理念

未来をはぐくみ、こころの豊かさと新しい価値を創造し、
“緑と文化”を象徴する図書館

子どもや青少年の未来をはぐくむための読書・学習環境の整備、支援をはじめ、幅広い世代の区民が、読書や様々な活動を通じてこころの豊かさを深め、図書館の資料やレファレンス*2により様々な課題を解決できる場としての新たな中央図書館とする。

また、緑の中で地域の歴史・文化・資源や友好都市との国際交流を通じ、板橋区の魅力を知ることができる新たな中央図書館とする。

1）板橋区民の未来をはぐくむ、生涯学習の新たな拠点として

現代に生きる私たちにとって、充実してほしい社会像のひとつが「生涯学習社会」である。

「生涯学習社会」とは「人々が、生涯のいつでも自由に学習機会を選択して学ぶことができ、その成果が適切に評価される社会」である。

「生涯のいつでも自由な学習機会」の例としては、幼稚園、保育園の時代から始まって、学校教育、社会教育、家庭教育、企業内教育訓練、各種研修活動、文化活動、ボランティア活動、本、新聞、映画、音楽、テレビ、インターネット…など、日常生活のあらゆる場面に「学ぶ」機会はある。

しかし、自らの意思で自由に「学ぶ」権利があると言っても、手段は多様でその範囲は無限であるが、時間や費用などの制約があり、きっかけがつかめず、長続きしないことも多い。

そのため、個人の「学ぶ」権利を尊重しつつ、「触発し合う、学び合う」ことのできる場と機会の充実が重要であり、区民が自由に集まることのできるコミュニティの役割への期待も大きい。

「学ぶ」権利と機会を支える「図書館」は、生涯学習社会で学習を継続していくために必要な学習情報を収集して学習者に提供する業務を行い、人々の学ぶ権利をあらゆる世代に対して支援する機能をもち、なおかつ次の特性を兼ね備えている。

・日常的に利用できる
・予約不要で無料である
・身近にある
・ネットワークにより他図書館の蔵書も検索･貸出が可能である
・一人でもグループでも利用できる　等

そして、全国の先進事例をみても、その働きを充実させ、魅力を増せば増すほど、利用者が集まり、学び合う度合いも高まっていくことがわかる。

例えば、①小さな子どもを連れたお母さんたちが「図書館」で知り合い、情報交換する輪が広がる、②日曜日に家族連れが長い時間「図書館」で過ごす、③中高年が「図書館」を日常利用するうちに、得意分野を教え合える仲間ができる、といったことがある。

したがって、新しい図書館は、世代をこえ、人々が「図書館」を舞台として多様に活動する図書館をめざす。

2)　まちづくりの新たな拠点として

祖父母や親と図書館で過ごした記憶をもつ子どもたちが大人になって、今度は自分の子や孫を連れてこの施設を訪れる････。

そのような世代を越えた利用は、日常的に、誰でも繰り返し利用できる図書館だからこそ、可能であり、まちづくりにおいては、世代を継いで記憶に残る新たな場になる。

したがって、新しい図書館はときわ通りに面する平和公園の一角に建ち、教育科学館などにも近い立地条件を活かしつつ、長期にわたり区民に親しまれ続ける図書館をめざす。

3)　“板橋らしさ”を象徴する新たな拠点として

板橋区基本構想では、板橋区の 10 年後の将来像を「未来をはぐくむ緑と文化のかがやくまち“板橋”」と定め、「東京で一番住みたくなるまち」をめざしている。また、これを実現するために、板橋区基本計画 2025 では、「未来をはぐくむあたたかいまち」、「いきいきかがやく元気なまち」、「安心・安全で快適な緑のまち」の 3 つの基本目標を掲げている。

したがって、新しい図書館は、板橋区の新たな情報拠点として、板橋区の魅力である“緑”に囲まれた環境の中で、「絵本のまち板橋」「教育の板橋」「ものづくりの板橋」など、板橋区の良さをより強く引き出し、区内外に発信する拠点づくりをめざす。

そして、地域の中で、子育てし、生涯にわたり、様々な学習や活動の支援を行う場の提供を行う。情報が集まり、だれでも自由に活用できること、大勢の人が集まり学び合う空間があることなど、“図書館だからできること”を追い求める。

2. 新しい中央図書館像

基本理念に基づき、板橋区の地域的な特性を踏まえた、新しい中央図書館像を以下にまとめる。これらは、基本構想を具体化するための方向性を示している。

1） 板橋区立図書館の中央館として、区内 10 館の地域図書館の核となり、区民の求める適切な情報を提供する図書館

11 館ネットワーク体制強化のために、中央図書館の施設、体制両面において充実させる。新しい中央図書館は、地域図書館の指導的役割を担い、板橋区立図書館がもつ数々の特徴ある蔵書、資産の魅力を広く区民に伝える。そのためにレファレンス体制を強化し、区民活動と連動しながら、板橋らしい中央館のあり方を追求していく。

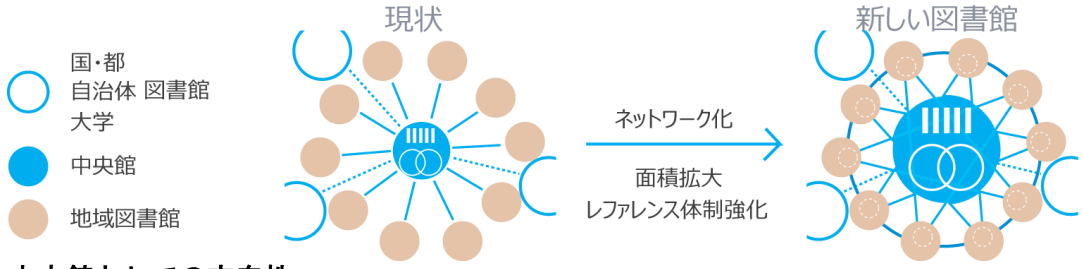

図 II-1 中央館としての方向性

2） ボローニャ子ども絵本館を併設し、“絵本のまち板橋”として、世界の絵本の魅力を発信する図書館

今回の図書館の整備では、中央図書館の魅力を高める機能として、ボローニャ子ども絵本館を中央図書館に併設する。世界の文化をボローニャ国際児童図書展に出品された美術的にも優れた絵本で紹介することに加え、児童書と関連づけての紹介や翻訳大賞などの全国に向けたコンクール等、ボローニャ子ども絵本館の魅力を他の事業と多角的に結びつけて中央図書館の魅力を高めることを追求する。

そして、地域図書館へも、ボローニャ絵本の魅力を伝えていく。

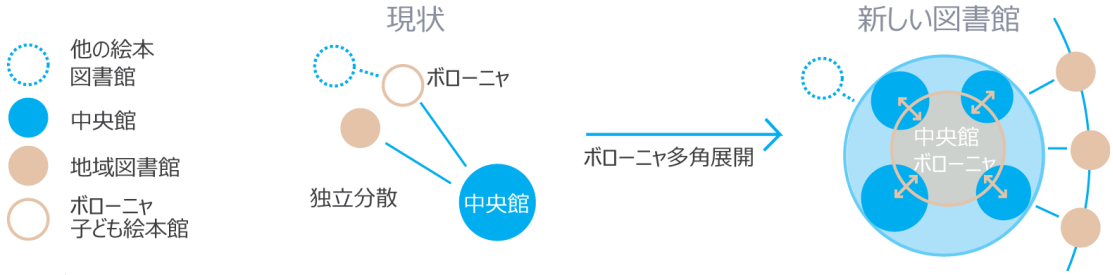

図 II-2 ボローニャ子ども絵本館の多角的な展開

3） 子ども向け図書、サービスを充実させ、親子で本に親しむ場を提供する図書館

乳幼児のころから、親子で本に親しみ、様々な本に出会う場を提供し、子どもたちの豊かな感性や情緒を育み、読書好きの子どもを育てる環境を整備する。おはなし会など成長過程に応じた子ども向けイベントや参加者同士の交流を通して、読書への愛着を育み、読書活動を支援する。その後、生涯にわたる読書と学びを支える図書館をめざしていく。

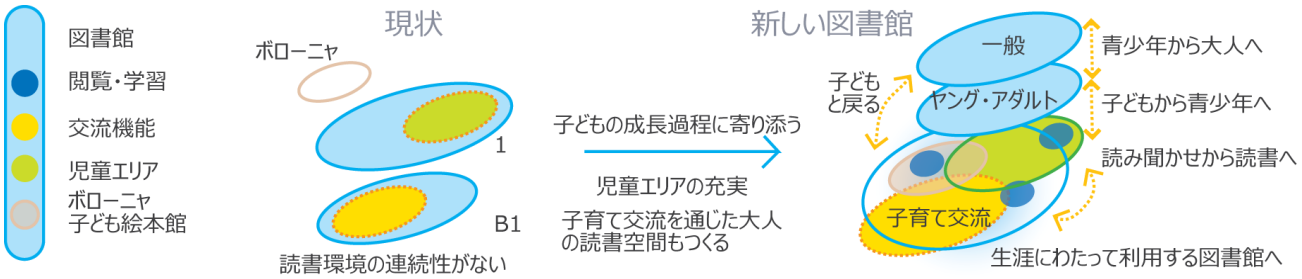

図 II-3 親子で本に親しむ図書館

4） あらゆる世代の区民が集い、学び合い、交流、活動する場となる図書館

様々な年代や利用目的の人々のニーズに応え、利用しやすいと感じられる多様な居場所作りが重要である。グループやサポーター（ボランティア）が世代をこえて、様々な活動を通じ学び合い、交流する場となる図書館をめざしていく。

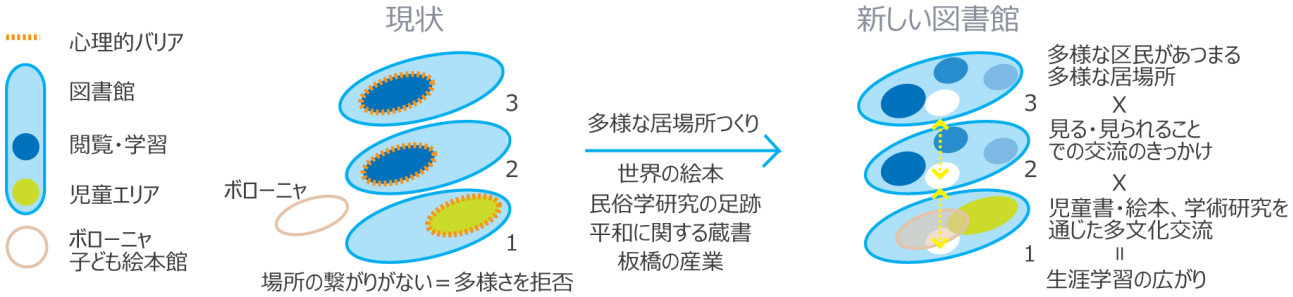

図 II-4 さまざまな居場所が選べる図書館

5） 公園内の緑に囲まれた環境の中で豊かで快適に過ごすことができる図書館

平和公園の立地の特性を活かして、平和公園と中央図書館、教育科学館や学校等の連携による相乗効果で地域を活性化し、板橋の魅力を高める。

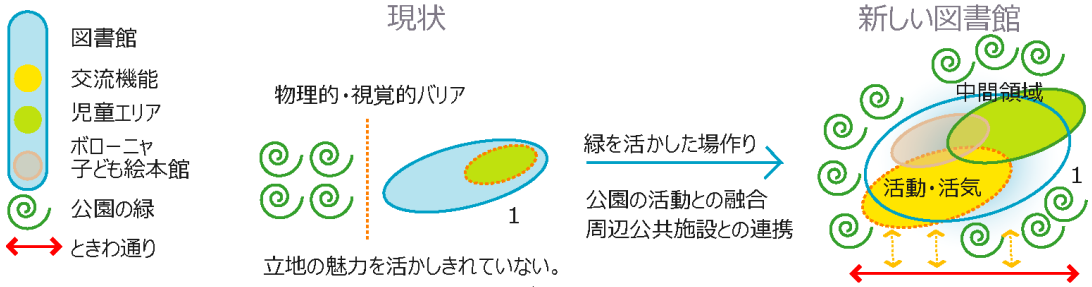

図 II-5 公園、地域の魅力を活かした図書館づくり